

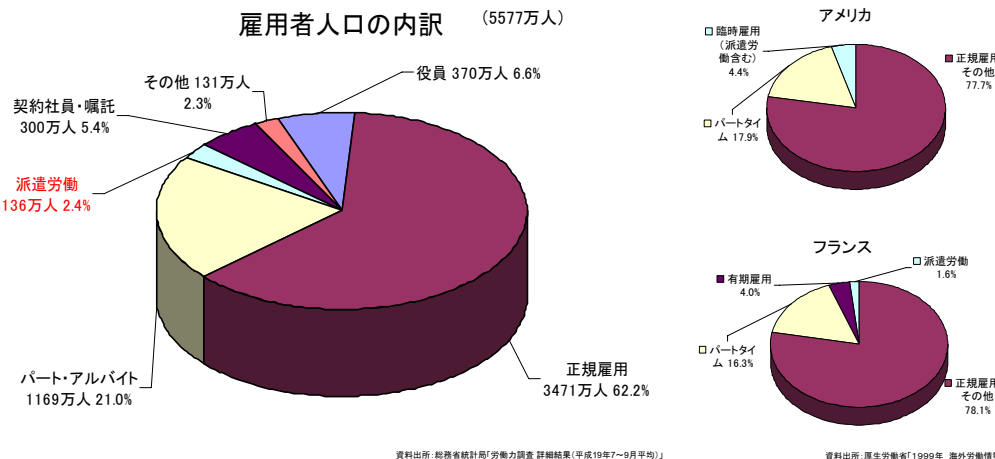
労働者派遣を 正しく理解してください

 **社団法人 日本人材派遣協会**
Japan Staffing Service Association

「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律」(以下、労働者派遣法)が施行されて22年が経過しました。すでに労働者派遣制度は、経済社会に広く浸透し、その役割も大きなものとなっています。近年、労働者派遣をめぐるさまざまな現象が取り上げられていますが、一部の現象をことさらに強調するようなことも見うけられます。

私たちとしても、コンプライアンスの徹底に今まで以上に取り組みながら、今後とも労働者保護を第一義とした事業運営をしてまいりますので、広く社会の皆様方におかれましては労働者派遣制度の実情を公正に理解していただきたいと思います。

派遣は非正規労働の一部です



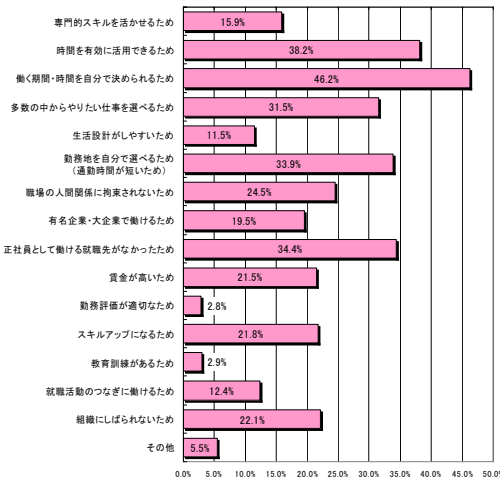
雇用形態を分類するときに、「正規」に対比して「非正規」という言葉が使われます。「非正規」とは、「雇用者」から「役員」「正規雇用」を除いた雇用者をさします。派遣労働者は急速に拡大したことから、「非正規」の代表のように言われます。しかし、現実には、パート・アルバイトの1/10、「非正規」の7.6%に過ぎません。雇用者全体で見てもわずか2.4%なのです。

欧米諸国と比較しても、労働人口の内訳構成に大差はなく、派遣労働者の比率が特に高いということもありません。

派遣を積極的に評価・選択している労働者が多い

派遣会社に登録した理由

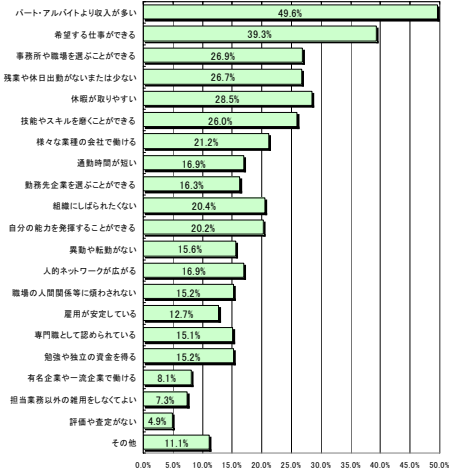
n=13390



資料出所: 当協会「派遣スタッフWebアンケート 一万人調査」(平成19年12月)

派遣労働者として働くようになった理由

n=558



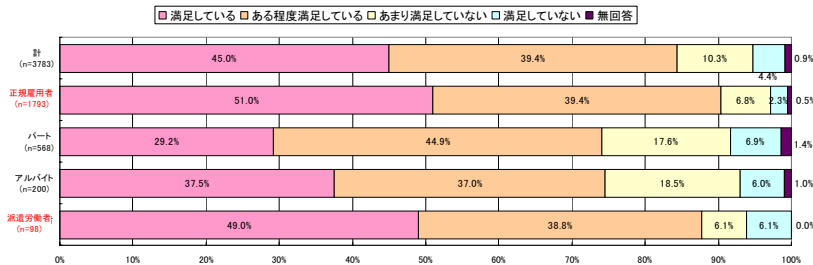
資料出所: Litゼン「派遣労働者の仕事と職業生活」(平成17年3月)

派遣労働者の働く意識を、ネガティブにお考えの方々が多いのに驚きます。派遣労働と正規雇用は、それぞれに良さがあるのではないのでしょうか。

派遣労働は、働き方の1つの選択肢です。派遣労働を積極的に選択された方々の自発性を尊重してください。正規雇用者でも、無限責任や長時間労働等その労働環境に不満を持つことはありますし、不当な処遇に対して抗議したり、人間関係の煩わしさに悩むこともあります。

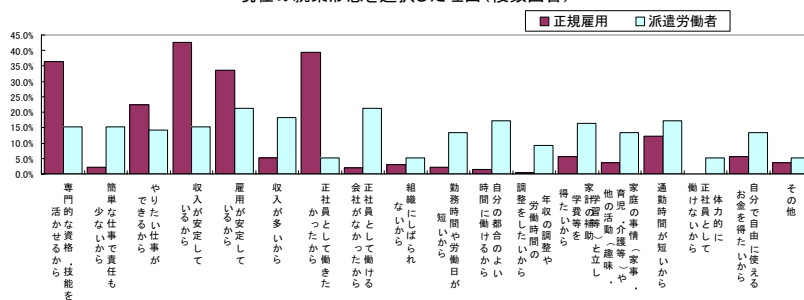
「定着は善」で「流動は悪」なのでしょうか

今の仕事全体についての満足度



資料出所: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構 2005年度日本人の働き方調査(第1回)

現在の就業形態を選択した理由(複数回答)



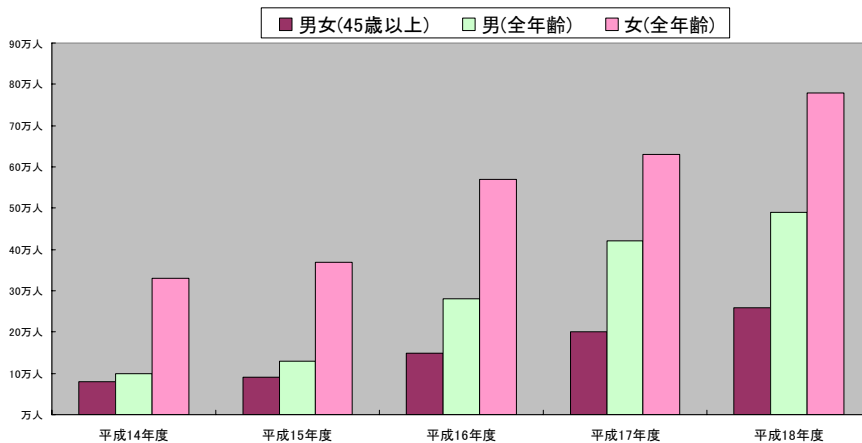
資料出所: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構「日本人の働き方調査(第1回)(2005年)」

「正規雇用」だけが望ましい働き方である、という価値基準は、正しいのでしょうか。働く立場に係らず満足度にほとんど違いがないのは、自分に合った働き方かどうか、自分の求めている仕事内容かどうかという点が重要だからなのです。正規雇用と派遣労働では、それぞれの選択理由が大きく異なっていることがそれを示しています。

働く側の意思があり、人を求める側の考えがあります。労働者のニーズに応える多様な働き方があり、その多様性を認める社会こそが、成熟した良い社会といえるのではないのでしょうか。

派遣労働は中高年齢者や子育て後の女性向きの働き方です

労働者派遣事業所の派遣労働者の推移



資料出所：総務省統計局「労働力調査」(平成19年8月)

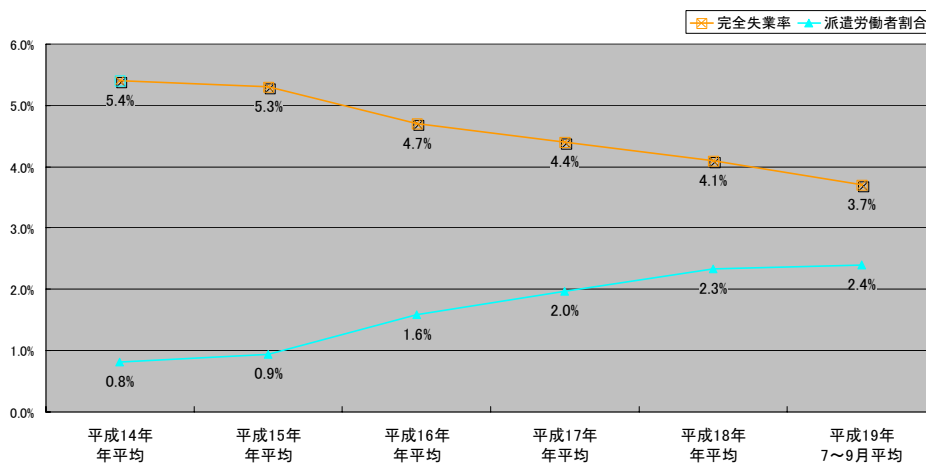
派遣労働は20歳代～30歳代の方が多いのが特徴です。しかし、中高年齢(45歳以上)や、子育て後の女性にも仕事の間を提供しています。

正規雇用の人口には、ほとんど増減が見られませんから、中高年齢者、特に女性の派遣労働者の増加はそのまま、こうした方々に仕事の間を増やしていることとなります。

高齢者や子育て後の女性に働く場を与える派遣労働は、これから一層進む少子高齢化社会において、大きな役割が期待されます。

労働者派遣は失業予防と労働力の需給調整に貢献しています

完全失業率と派遣労働者の雇用に占める割合



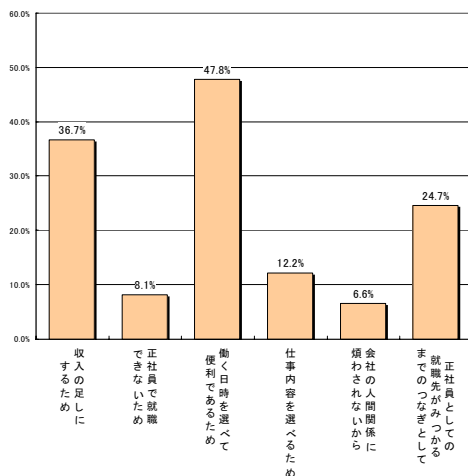
資料出所：総務省統計局「労働力調査」

- ・自分の能力を生かした仕事をしたい。
- ・体力的に長時間労働は無理、短時間で働きたい。
- ・家事負担と両立できる仕事をしたい。
- ・家計補助のため働きたい。
- ・年金等との関係で多くの収入はもらえないが社会に出ていたい。

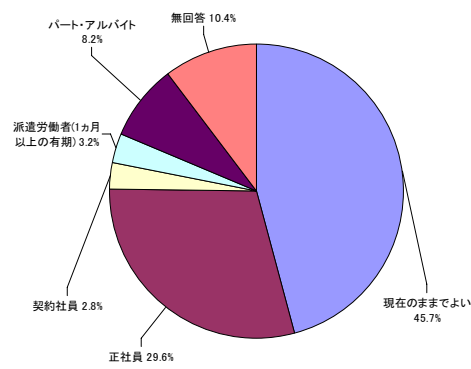
非正規雇用を否定するならば、こうした方々に働く場はなくなります。労働者派遣事業の役割は、こうした方々と仕事を結びつけることであり、雇用の創出と経済の活性化に貢献しています。

日雇い派遣にまつわる問題は 労働条件の問題です

短期派遣で働く理由 n=689



短期派遣労働者*の
今後希望する就業形態 n=689



*「短期派遣労働者」とは1か月未満の雇用契約で働く者

資料出所：厚生労働省「日雇い派遣労働者の実態に関する調査結果報告書」（平成19年8月）

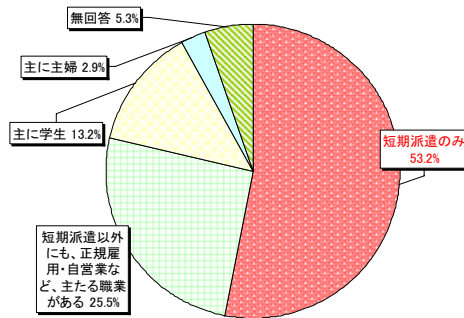
日雇い派遣が大きく取り上げられ問題視されていますが、以前から派遣では短期のニーズがあり、またそれに応じて働く方々がいるのです。

取り上げられている問題は、賃金から不当な天引きがある 移動拘束時間の賃金が支払われない、仕事に必要なだとして物品を買わされた等、労働者本来の権利が侵されていることにあります。こうした問題は、労働者派遣制度の問題ではなく、労働基準法上の問題なのです。期間が短い、日々雇用であるからではありません。

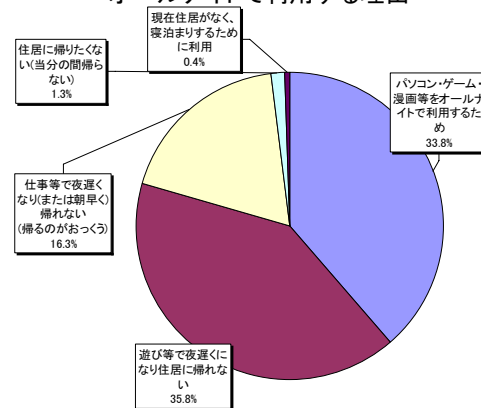
労働者の権利を侵害する行為は許されません。私たちは、適正な雇用管理の指導に努めていきます。

短期派遣労働者＝ネットカフェ難民 ＝ワーキングプアは幻想です

日雇い派遣労働者現在の状況 n=698



短期派遣労働者がネットカフェ等をオールナイトで利用する理由 n=305



資料出所：厚生労働省「日雇い派遣労働者の実態に関する調査結果報告書」（平成19年6月）

短期派遣のみで働く労働者は、短期派遣労働者全体の半数程度です。

また、短期派遣労働者でネットカフェをオールナイトで常用的に利用する方々は、極く少数で、寝泊りの目的で利用している方々は0.4%に過ぎません。ほとんどのネットカフェ利用者は、遊びに絡んでの利用であって、ワーキングプアには繋がりません。